

日常生活での衛生保持に関する研究

伊藤 天音
渡邊 杏奈

目的：2020年1月に日本国内で新型コロナウイルス感染症感染者が発見されて以降、感染者の急増に伴い、衛生に関する一般の意識の向上が見られた。各施設でもアルコール消毒液が設置され、手洗いが励行されているが、適切な方法で実施されているとは必ずしも言えない現状が見受けられる。そこで、本研究ではアルコールや手洗い用石鹸の使用による手指の菌数の変化を測定し、効果的な消毒の方法を検討した。また、マスク使用時の経時的な付着菌数の変化についても測定し、衛生的なマスクの使用方法についても検討した。

方法：アルコール消毒液、薬用ハンドソープ、アルコールウェットティッシュ、ノンアルコールウェットティッシュを用いて、処置前後の手指の菌数の変化を、標準寒天培地を用いて測定した。また、一定時間装着したマスクの付着した細菌数を、生理食塩水を用いた揉み洗い法で計測するとともに、マスク上の菌の分布を標準寒天培地への付着法で調べた。

結果考察：手指の衛生試験の結果、アルコール消毒液使用時には使用前と比較して有意な菌数の減少がみられた。薬用ハンドソープおよびアルコールウェットティッシュ使用時にも菌数の減少傾向がみられた。ノンアルコールウェットティッシュ使用時には菌数の減少は見られなかった。したがって、アルコール消毒液の使用が手指の衛生を保つのに最も効果的であると考えられる。マスクの衛生試験の結果、2時間使用したマスクからは約5万個、4時間使用したマスクからは約12万個のコロニーが検出された。菌のコロニーは、マスク内面の鼻や口元付近に多く出現した。またマスク外面の口元付近からも多くの菌が検出された。以上の結果より、特に食事前にマスクを外す際は、マスク内面に触れずに紐部分やマスクの端を持つようにし、できればマスクを外した後に手を消毒するのが望ましいと考えられる。